

ナズナ発酵エキス 液体

開発の経緯

ナズナは英名Capsella bursa-pastorisで、アブラナ科ナズナ属の草木です。花言葉は献身の愛です。日本各地の田畑に自生しています。また、ナズナは春の七草で、若苗を食用にします。民間薬として利用されていました。葉を陰干しにして熱水で抽出されて飲用や塗布されていました。ナズナには細胞を再生する働きがあり、これは有機酸が働くと考えられていました。ナズナの研究例は少なく、その作用は未知でした。それは高分子であるため、吸収や代謝されにくいという点が課題でした。そこで、今回、発酵エキスとすることにより、ナズナの有効成分を低分子化してかつ、遊離させることに成功しました。この発酵液には細胞を再生させる働きの他に、遺伝子の修復に働くことが判明しました。また、安全性が高いということも、特徴です。さらに、防腐剤や添加物を添加しない状態でも安定です。

化粧品用 推奨有効濃度5%

表示名称 ナズナエキス、バチルス／ダイズ発酵エキス(配合比率90:10)

INCI Capsella Bursa-Pastoris Extract、Bacillus/Soybean Ferment Extract

中文名称 芥(CAPSELLA BURSA-PASTORIS) 提取物、芽孢杆菌/大豆发酵产物提取物

原材料 : ナズナ葉(日本産)、大豆(日本産)、納豆菌(日本産)

保管方法 : 冷暗所に保管する。

注意事項 開封後は落下菌の混入を避け、冷暗所に密閉して保管し、お早めにご使用ください。

未開封時賞味期限 : 2年間

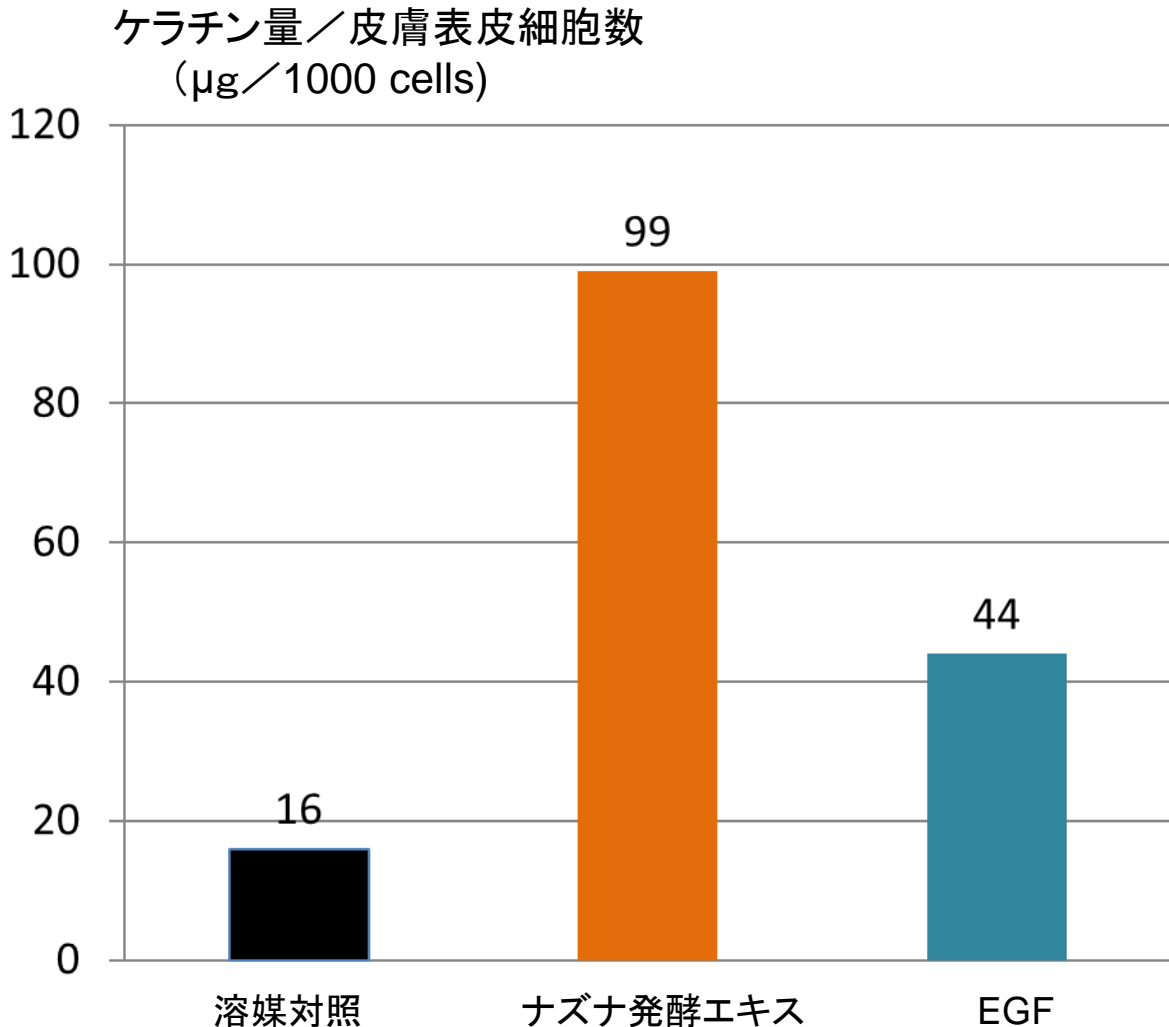
その他 : 防腐剤、添加物、BGなどの有機溶媒は使用していません。
日本製造

特許第6891314号

ナズナ発酵エキス 液体

－ ヒト皮膚表皮細胞 / ケラチン増加作用 －

ヒト皮膚表皮細胞



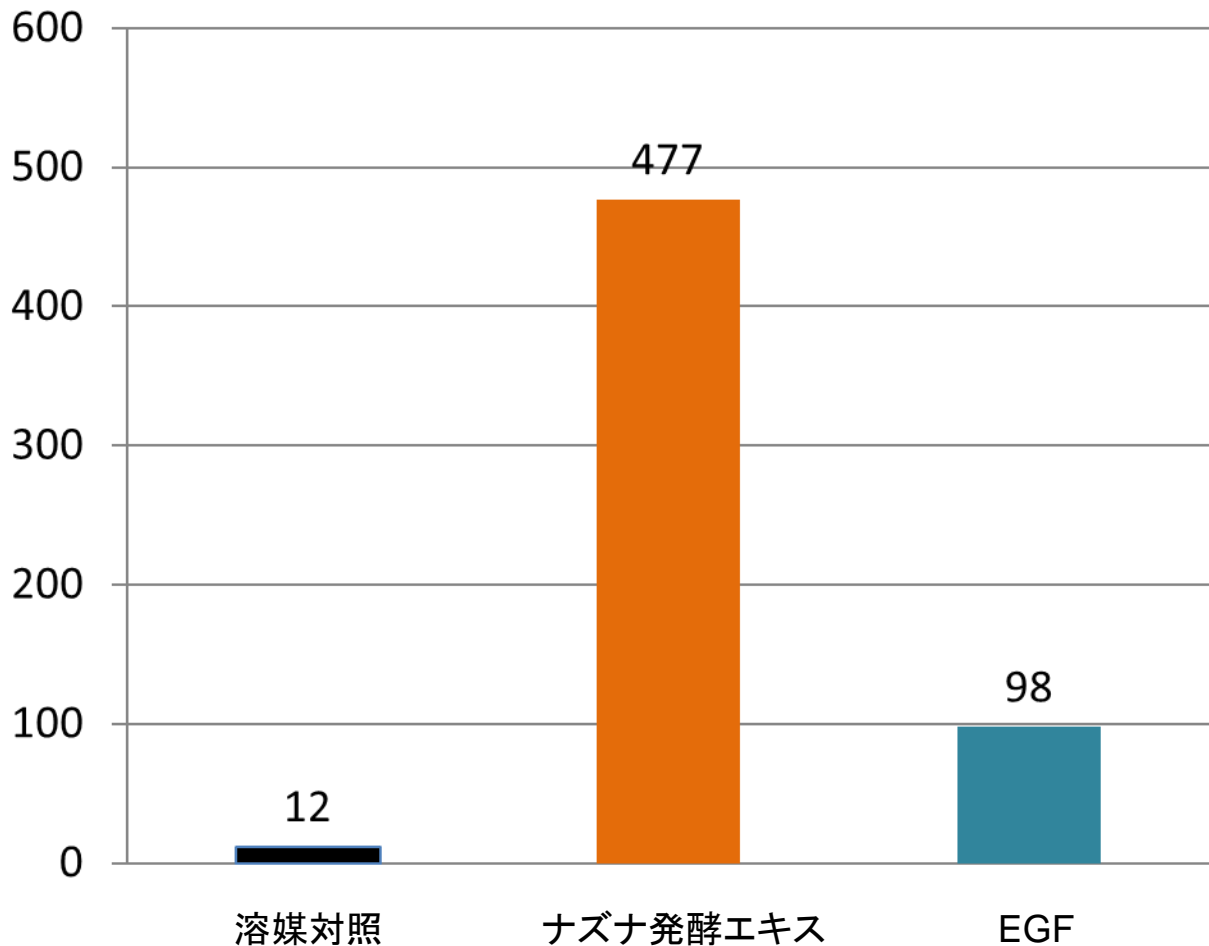
ナズナ発酵エキスは紫外線照射したヒト皮膚表皮細胞のケラチン量を増加させました。その働きはEGFよりも優れていました。

ナズナ発酵エキス 液体

— ヒト皮膚表皮細胞 / DNAポリメラーゼ作用 —

ヒト皮膚表皮細胞

DNAポリメラーゼmRNA量 (コピー)



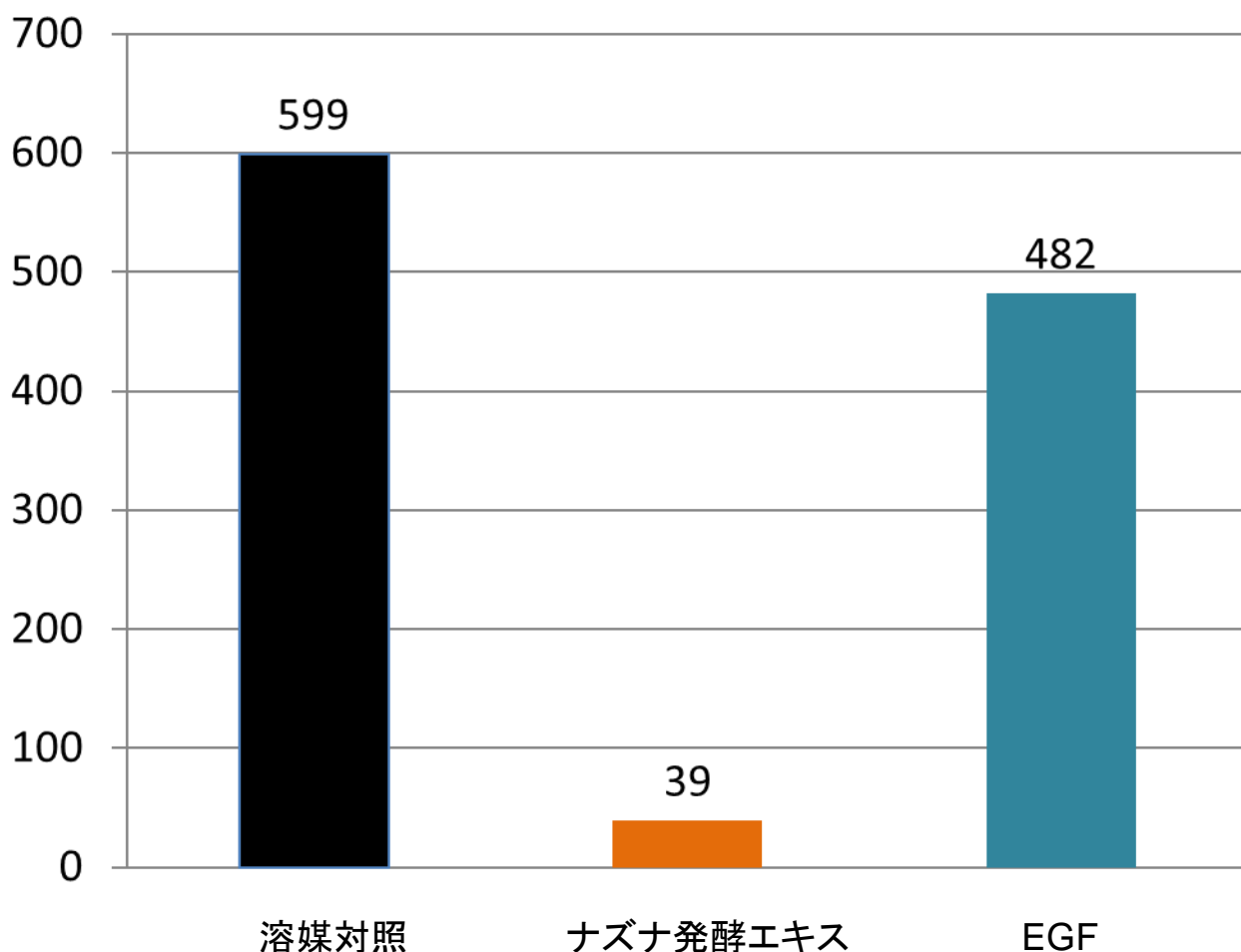
ナズナ発酵液は紫外線照射したヒト皮膚表皮細胞のDNAポリメラーゼmRNA量を増加させました。その働きはEGFよりも優れていました。

ナズナ発酵エキス 液体

－ ヒト皮膚表皮細胞 / 8OHdG抑制作用 －

ヒト皮膚表皮細胞

8OHdG量 / 皮膚表皮細胞 (ng/1000 cells)



ナズナ発酵液は紫外線照射したヒト皮膚表皮細胞の8OHdG量を減少させました。その働きはEGFよりも優れていました。

製品規格書

製品名 : ナズナ発酵エキス 液体

検査項目 :

1. 外観

検査項目	規格	測定方法
色	無色透明～薄黄色	目視
状態	液体	目視

2. 重金属・微生物

検査項目	規格	測定方法
砒素	2ppm 以下	原子吸光光度法
重金属	20ppm 以下	硫化ナトリウム比色法
一般細菌数 (生菌数)	100 以下/g	標準寒天平板培養法
真菌数	陰性 0 /g	デキストリン培地培養法
大腸菌群数	陰性 0 /100g	MPN 算出法

化粧品用 推奨有効濃度 5%

表示名称 ナズナエキス、バチルス/ダイズ発酵エキス (配合比率 90:10)

INCI Capsella Bursa-Pastoris Extract、Bacillus/Soybean Ferment Extract

中文名称 芥 (CAPSELLA BURSA-PASTORIS) 提取物、芽孢杆菌/大豆发酵产物提取物

原材料 : ナズナ葉 (日本産)、大豆 (日本産)、納豆菌 (日本産)

保管方法 : 冷暗所に保管する。

注意事項 開封後は落下菌の混入を避け、冷暗所に密閉して保管し、お早めにご使用ください。

未開封時賞味期限 : 2年間

その他 : 防腐剤、添加物、BGなどの有機溶媒は使用していません。

日本製造

以上

提供元 : 株式会社 Esthisis

安全データシート (SDS)

< 1. 製造者情報 >

製品名 : ナズナ発酵エキス 液体
提供元 : 株式会社 Esthisis

< 2. 物質の特定 >

単一製品・混合物の区別 : 発酵エキス 液体
化学名 (一般名) : 特定できない
CAS RN : 特定できない
化審法番号 : なし
安衛法番号 : なし
国連番号 (番号 クラス) : 該当せず
EINECS : なし
TSCA : なし

< 3. 危険有害性の分類 >

分類の名称 : 分類基準に該当しない
危険性 : 可能性がある。 熱、火花及び火災で着火することがある。
有害性 : 眼、呼吸器及び皮膚を刺激するおそれがある。
環境影響 : 記載すべき情報はない。

< 4. 応急措置 >

目に入った場合 : 直ちにまぶたを開いて、流水で15分間以上洗浄する。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
皮膚に付着した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
吸入した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
飲み込んだ場合 : 多量に飲み込んだ場合、下痢を起こす場合がある。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。



特許証

(CERTIFICATE OF PATENT)

特許第6891364号
(PATENT NUMBER)

発明の名称
(TITLE OF THE INVENTION)

遺伝子修復作用を呈するフマル酸誘導体

特許権者
(PATENTEE)

愛知県一宮市八幡四丁目1-67-606

二村 芳弘

発明者
(INVENTOR)

二村 芳弘

出願番号
(APPLICATION NUMBER)

特願2017-003840

出願日
(FILING DATE)

平成29年 1月13日(January 13, 2017)

登録日
(REGISTRATION DATE)

令和 3年 5月31日(May 31, 2021)

この発明は、特許するものと確定し、特許原簿に登録されたことを証する。
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE PATENT IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

令和 3年 5月31日(May 31, 2021)

特許庁長官
(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

糟谷敏秀

